

第6学年 体育科学習指導案

令和4年5月18日(水) 5校時

児童数 28人

指導者

1 単元名 「 跳び箱運動 」

2 運動の特性

(1) 一般的な特性

自分に合った高さ・向き・踏み切り位置の跳び箱に挑戦したり、色々な飛び越し方に挑戦したりして楽しむ運動である。

(2) 児童から見た特性

- ・跳び箱の学習に対して21人(75%)の児童が「好き」「だいたい好き」と答えている。成功したことの喜びを感じている児童が多い。
- ・跳び箱の学習に対して7人(25%)の児童が「あまり好きではない」「好きではない」と答えている。その理由として、怪我が怖い、運動が好きでないと回答する児童が多くいた。また、うまく跳べなくて恥ずかしかった等、周りの目を気にしている児童も数人いた。
- ・児童のレディネス「開脚とび(縦)・かかえこみ跳び(縦)・台上前転」は、以下の通りである。

【 できる技 ○人/28人 】

	3段	4段	5段	6段	7段
開脚跳び	28人	28人	24人	17人	12人
かかえこみ跳び	13人	11人	6人	4人	3人
台上前転	9人	5人	4人	3人	2人

台上前転以上のレベルの回転系の技「首はね跳び・頭はね跳び」には未挑戦であった。

3 運動の学び方

- ・ほとんどの児童が、単元や一時間の学習の流れを見通して活動できる。
- ・「めあて→活動→振り返り」の流れの学習は定着してきており、めあてを意識して振り返りを記述できる。
- ・撮影してもらった自分の運動の姿を見返したり、手本の動画を見たりして、タブレット端末を活用できる。
- ・単元を通して自分の学び方や成長を振り返ることはあまりできない。

4 教師の授業への意図

- ・単元を通した目標として、『「できた」を増やして跳び箱を楽しもう』を掲げることで学びの目的を明確にする。単元末には、単元を通した目標を達成できたかを振り返らせることで、自分の学び方や成長に着目させ、今後の学びに生かす態度を培ったり成長したことの喜びを実感させて運動の楽しさに触れさせたりしたい。
- ・単元を通した目標の実現に向けて2時目以降は1時間の中で2つのめあてを設定する(スパイラル型)。めあて1の活動を「今できる技のできばえを高めよう」とし、段数や踏み切り位置を変えて跳ぶ楽しみ方を味わえるようにする。また、めあて2の活動を「もう少しでできそうな技に挑戦しよう」とし、友だちと技を見合ったり、練習の場の工夫を考えたりしながら、達成する喜びを感じられるようにする。
- ・技が「できた」の基準「ふわっと着地で2秒静止」を明確に示し、色んな技でこの「できた」の達成感を味わえるようにしたい。そのために、技の形態図を掲示し、その中に「踏み切り」「着手」「空中姿勢」「着地」の4つの視点で、個人が発見したコツを書き入れられるようにしておく。技のできばえを高めたり、新たな技に挑戦したりする際には、そのコツを見ながら自分なりに試行錯誤しながらチャレンジできるようにする。
- ・学習末の振り返りでは、めあての達成状況や学び方について、また、次時に挑戦したい事を記述させるようにする。次時に挑戦したい事をめあてとさせることで、自分の学びに目を向けた切実感のあるめあてとなるようにする。更に、めあてをより焦点化し明確にするために、めあては「何をどのように取り扱うか」の内容で選択できる形式にしておく。単元を通してめあてと振り返りをどのように書いたかが分かるように一枚で完結する学習カードを使用して、児童が自分の学びや成長を見返すことができるようにする。

- ・児童はタブレット端末の有用性を感じている。そのため、本単元でもタブレット端末を活用する。活用方法①お手本動画をいつでも見られるようにしておく、②友だちに自分の技を撮影してもらい、見返したり、アドバイスし合ったりする、これら2つを通して、効率的にめあてを達成できるようにする。また活用方法③できるようになった技の動画を撮りためる、ことを通して学習の足跡を残し、単元末の振り返りで活用できるようにする。
- ・「できないこと」に対して周囲の目を気にする児童が楽しんで活動できるようにするために、教師の言葉かけを工夫する。技が完成しなくとも「できていない。」でなく、「ここまではできているね。」と小さな成長に目を向けて肯定的な言葉かけを行い、完成に近づいている実感を持たせ、少しずつでも挑戦する意欲を高めていきたい。また、「できないこと」を「できる」ようにする学習だということを全体で共有し、「できないこと」を引け目を感じないようにする。
- ・怪我等の不安を感じている児童がいることから、安全面に配慮した場作りを行うようにし、跳び終わった後も場の安全を確認するよう言葉かけを行う。また、無理に難しい技に挑戦して怪我をすることがないように、技の系統表を掲示し、自分の力に合った技を選べるようにする。

5 評価規準

	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元に盛り込む 評価規準	跳び箱運動の行い方を言ったり、書いたりしている。	跳び箱運動の切り返し系や回転系の基本的な技をできる。	自分の力に合っためあてを持ち、技ができるようになるための運動を工夫するとともに、考えたことを友だちに伝えている。	跳び箱運動の楽しさや喜びに触れることができるように、進んで取り組もうとするとともに、きまりを守り、運動する場や器具・器械の安全を確かめている。
学習活動に即した 評価規準	①切り返し系や回転系の基本的な技の動き方やポイントを言ったり、書いたりしている。 ②切り返し系や回転系の基本的な技の練習の仕方を言ったり、書いたりしている。	③自分の力に合った切り返し系や回転系の基本的な技ができる。	①自分の力にあった課題を見つけ、課題解決のための活動を考え、試している。 ②課題解決のために考えたことを友だちに伝えている。	①器具・器械の使い方や運動を行う際のきまりを守り、基本的な技に進んで取り組もうとしている。 ②運動する場や器具・器械の使い方などの安全を確かめている。

6 学習の道筋と評価計画

時間	1	2・3・4 (本時)・5・6・7						
過程	つかむ	挑戦する						
学習活動	単元を通した目標：「できた」を増やして跳び箱を楽しもう。							
	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の目標と流れをつかむ。 ・場の設定の仕方を知る。 ・準備運動の仕方を知る。 ・安全面の確保の仕方を知る。 ○できる技に挑戦する。 ・学習を振り返る。 	めあて①：今できる技のレベルアップを目指して楽しもう。						
		活動の工夫①：形態図にコツを書き入れ、いつでも見ることができるようにする。						
		<ul style="list-style-type: none"> ・活動が停滞しそうな児童を中心に個別指導を行う。 ・学び方や安全面についてのことなど、全体で共有したい内容は全体指導を行う。 【 教師の指導 】 						
		めあて②：もう少しでできそうな技に挑戦して楽しもう。						
		活動の工夫②：タブレット端末を活用して撮影した動画を見返したり、助言し合ったりする。						
評価項目	知		①	①	②	②	③	③
	思			①	①	①	②	②
	主	① ②	①②					

7 本時について (4 / 7)

(1) 目標

切り返し系や回転系の基本的な技の練習ができる。【知・技】

自分の力にあった課題を見つけ、課題解決のための活動を考えることができる。【思・判・表】

(2) 展開

過程	学習活動	指導○ 評価◇
はじめ	<p>1 場の準備を行い、準備運動をする。</p> <div data-bbox="288 450 775 577" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【準備運動】 ・ジグザグランニング ・うさぎ跳び ・かえるの足打ち</p> </div> <p>2 めあてと本時で挑戦する技を確認する。</p>	<p>○準備運動が済んだ児童から学習カードとタブレット端末を準備させ、本時のめあてを確認できるようにし、学習の見通しを持たせる。</p> <p>○児童が取り組みの見通しを持てているか確認する。</p> <p>○技の一覧が示してある掲示物の中から、本時で取り組む技の箇所にネームプレートを貼らせることで、同じ技に取り組む友だちを確認させる。</p>
なか	<div data-bbox="352 779 1326 824" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>めあて① 今できる技のレベルアップを目指して楽しもう。</p> </div> <p>3 めあて1の活動を行う。 ・「できた」の基準や場の安全を意識して活動する。</p> <div data-bbox="288 969 775 1055" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【「できた」の基準】 ふわっと着地で2秒静止</p> </div>	<p>○繰り返し挑戦しても中々達成できないでいる児童や活動が停滞している児童を中心に個別に、或いは、複数人を集めて指導する。特に「開脚跳び」「かかえこみ跳び」に取り組む児童への指導を重視する。</p> <p>○技のレベルアップに向けて、必要に応じてこれまでの学習で書き溜めてきた技のコツを見たり、タブレット端末で手本動画を見たりするよう促す。</p> <p>○技のコツを発見した児童には、他の児童が挑戦する際のヒントとなるよう掲示物に新たに書き足すよう促す。</p>
	<p>3 めあて2の活動に必要な場の準備を行う。</p>	<p>○本時のめあて2で必要な場を提示し、場の安全を確認させながら準備させる。</p>
	<div data-bbox="352 1413 1326 1458" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>めあて② もう少しでできそうな技に挑戦しよう。</p> </div> <p>3 めあて2の活を行う。 ・繰り返し挑戦したり場の工夫を考えたりして活動する。</p>	<p>○「台上前転」「首はね跳び」「頭はね跳び」に挑戦する児童を中心に助言・指導を行う。</p> <p>○めあての達成に向け、必要に応じて掲示されてある技のコツを確認したり、タブレット端末で手本動画を見たりするよう促す。</p> <p>○数名にできるようになった技を披露させ、技のコツを共有する。</p>
おわり	<p>4 学習を振り返る。</p>	<p>○できなかったことができるようになった児童や活動に工夫の見られた児童の振り返りを紹介し、他の児童の参考とさせる。</p>
<p>◇切り返し系や回転系の基本的な技の練習の仕方を言ったり書いたりしている。【知・技】 ◇自分の力にあった課題を見つけ、課題解決のための活動を考え、試している。【思・判・表】</p>		